

奈良県立万葉文化館蔵

## 「伝江南院龍霄筆切」解題

井上 さやか

### 【書誌情報】

(管理番号…イ7)

〔書写年代〕 室町時代頃

〔体裁〕 軸装

〔行数〕 三行

〔寸法〕 本紙 縦二三・九cm 横五・五cm

軸全長 縦二三三・〇cm 横二九・一cm

〔字高〕 二一・〇cm

〔料紙〕 楮紙

〔収録歌〕 『万葉集』卷十二・二九三一番歌、卷十三・三三二

三番歌、卷四・五四二番歌(訓読のみ)

〔その他〕 裏書「江南院龍霄」、古筆了仲極札「江南院龍霄」、

平安堂主人極札「青蓮院尊應准后門弟」、「本願寺」

透かし(元台紙)

### 【解説】

「伝江南院龍霄筆切」は、江南院龍霄(甘露寺氏長・一四四三年生〜一五〇九年没<sup>①</sup>)の筆による万葉集類聚本の断簡とみられる。書写伝来は不明だが、軸装前の台紙に「本願寺」の透かしが入っていたことから、一時期は同寺関係者の手元にあった可能性が考えられる。漢字本文はなく、漢字仮名混じりの訓のみで万葉歌が記されており、次点と新点とが混交してみられる。大阪府立大学附属図書館蔵『類聚万葉拔書』の訓及び部立てとの類似点が多い<sup>②</sup>。

なお、料紙や寸法等から、善光寺本坊大勧進宝物館蔵「大手鑑」(二曲一双屏風)に貼られた「みさこある…」(『万葉集』卷十一・二七三九番歌)と「濱きよく…」(同卷六・一〇六七番歌)の二首を記した江南院龍霄筆切のツレと考えられる<sup>③</sup>。

### 注

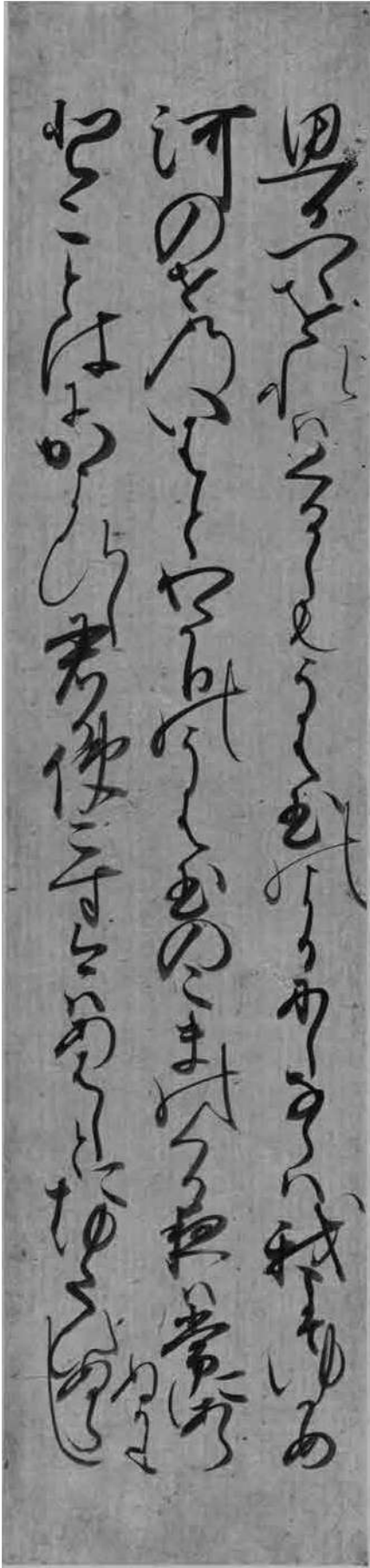
- ① 今泉淑夫「江南院龍霄」『東語西話 室町文化寸描』吉川弘文館、一九九四年
- ② 拙稿(分担執筆)「万葉文化館蔵「伝江南院龍霄筆切」について」『万葉古代学研究所年報』第一〇号、二〇二二年三月
- ③ 小倉久美子(分担執筆)「万葉文化館蔵「伝江南院龍霄筆切」について」『万葉古代学研究所年報』第一〇号、二〇二二年三月

【翻刻】

思ひつゝをれはくるしもうは玉のよるにしならは我こそゆかめ  
河のせのいはとわたりのうは玉のこまのくる夜は常にあら

ぬかも

とこととはにかよひし君か使こす今はあはしとたゆたひぬらし



古筆了仲極札



台紙（透過光）

「伝江南院龍霄筆切」  
奈良県立万葉文化館蔵（本紙・原寸）